

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	
23UMUP3205	主専実技ⅢB	3	<p>声楽：芸術作品を演奏するにふさわしい能力を高める。</p> <p>ピアノ：芸術作品を演奏するためにふさわしいピアノ演奏能力を獲得する。</p> <p>ヴァイオリン：前期の学習をふまえて、さらに音楽やヴァイオリンへの理解を深める。</p> <p>ヴィオラ：音楽性を向上させる。</p> <p>チェロ：前期の学習をふまえて、さらに音楽やチェロへの理解を深める。</p> <p>フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。</p> <p>クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。</p> <p>サクソフォン：さまざまな作品を演奏するために必要な能力を高める。</p> <p>ホルン：ホルン奏者としての演奏技術と幅広い知識を習得する。</p>	<p>声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。これまでに身につけた呼吸法・発声法を駆使しながら、レパートリーを広げていく。下級学年で勉強を重ねた外国歌曲との相違点を踏まえ、試験課題である日本歌曲の演奏法を身につける。</p> <p>ピアノ：課題曲を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につける。</p> <p>ヴァイオリン：知識・技能を自らの演奏に活かす。</p> <p>ヴィオラ：演奏技術のみならず、音楽性を伴った意味のある音を出せるようにする。</p> <p>チェロ：前期で習得したテクニックを応用し、与えられた課題をさらに高度に演奏することを目標にする。</p> <p>また独奏のみではなく、他の楽器との合奏を経験し、幅広い音楽性を身につける。</p> <p>フルート：音楽を表現するための妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ等）を克服するための方法を自ら考え、適応力を身につける。</p> <p>クラリネット：楽曲の構成を把握する能力を身につける。</p> <p>サクソフォン：現代の作品を研究し、さらにレパートリーを拡大していく。</p> <p>ホルン：更なる演奏技術を身に付け、より幅が広い時代や分野の作品を研究する。</p>							◎		◎		◎		○
23UMUP4206	主専実技Ⅳ	4	<p>声楽：芸術作品を演奏するにふさわしい能力を高める。</p> <p>ピアノ：芸術作品を演奏するために必要な能力を高める。</p> <p>ヴァイオリン：後期の卒業演奏のための技術的・音楽的理解の習得を目的とする。</p> <p>ヴィオラ：4年間の学習を完成させる。</p> <p>チェロ：これまでに習得してきた演奏技術の演奏表現の総合的完成を目的とする。</p> <p>フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。</p> <p>クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。</p> <p>サクソフォン：音楽性を磨きレパートリーの拡充を図る。</p> <p>ホルン：ホルン奏者としての演奏技術と幅広い知識を習得する。</p>	<p>声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。</p> <p>声楽曲を演奏するために必要な発声法、呼吸法等の歌唱法のさらなる向上を目指す。</p> <p>楽曲の深い理解と解釈を習得する。レパートリーのさらなる拡大をはかる。</p> <p>ピアノ：課題曲を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につける。</p> <p>ヴァイオリン：音楽家としての資質を高めるため、演奏技術、音楽的理解、表現力のさらなる向上を目指す。</p> <p>ヴィオラ：卒業演奏へ向けてこれまでの学習を再検討し、不足している部分を強化するとともに、自らが得意とする技法や表現をより伸ばしていく。</p> <p>チェロ：チェロのためのソナタ、協奏曲、もしくはそれに準ずる作品を選択し、曲の完成を目標とする。</p> <p>フルート：音楽を表現するための妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ等）を克服するための方法を自ら考え、適応力を身につける。</p> <p>クラリネット：舞台での演奏を念頭に置き、必要十分な技術、表現力を身につける。</p> <p>サクソフォン：卒業演奏での作品を決定する。これまでの学習内容を生かし、さらに研究を深める。</p> <p>ホルン：高度な演奏技術を身に付け、より豊かな演奏表現を目指す。</p>							◎		◎		◎		○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性							
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3				
23UMUP4230	作家作品研究Ⅱ	4	西洋音楽の作品が生み出される背景と音楽作品自体に内在している音楽的事象を分析的に考察する。その考察に基づいて実際の演奏表現に資する問題について講義する。	幅広い音楽作品へのアプローチの方法を、実際の演奏に反映できるようにすることを目標とする。		◎			○											
23UMUP2231	即興演奏 A	2	「即興演奏」の手法を学び、その基礎力を身につける。	伴奏譜がなくても、メロディーとコードネーム付き一段譜を見て、変奏も含めた簡単な即興演奏ができる事を目標とする。						◎										
23UMUP2232	即興演奏 B	2	「即興演奏A」で学んだ即興とはまた違った即興演奏を学習し、基礎力をさらに向上させる。簡単なメロディーを即興的に作成し、ピアノで即興演奏できる事を目指し、将来、教員や音楽教室講師などの職業に大いに役立つ力を身につける。	メロディーのモチーフを発展させ、即興的に簡単な曲が作成できる事を目標とする。						◎										
23UMUP4233	作・編曲法 A	4	主に歌曲の創作を通して、作曲のプロセスを学ぶことにより基礎的な作曲技法を学習するとともに、作曲家の意図する音楽はどのようなものかを把握し、自らの演奏に反映することのできる能力を養うことを目的としている。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	◎			○											
23UMUP4234	作・編曲法 B	4	器楽作品を主な題材に、作品の作られた時代背景にも考慮しながら作品分析を行い、音符や記号、楽語などの情報を含む基礎的な作曲技法を学習するとともに、作曲家の意図する音楽とはどのようなものかを把握し、演奏に反映することのできる能力を養うことを目的としている。	西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。	◎	◎			○											
23UMUP2235	旋律と和声 A	2	多種の和音、およびそれが作品の中で使われる際の多様な意味を、時代背景や地域性をも考慮しながら研究し、作品を深く理解する能力を養う。	和声課題の実践能力と、楽曲における和声の仕組みを読み取り考察する能力を身につける。	◎				○											
23UMUP2236	旋律と和声 B	2	多種の和音、およびそれが作品の中で使われる際の多様な意味を、時代背景や地域性をも考慮しながら研究し、作品を深く理解する能力を養う。	和声課題の実践能力と、楽曲における和声の仕組みを読み取り考察する能力を身につける。	◎				○											
23UMUP2237	教育伴奏法	2	中学、高等学校の授業で取り上げられるような教材を用い、各曲の指導のねらいとポイントにそった音楽づくりができるよう伴奏および弾き語りをする。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ピアノ専修：伴奏を通して音楽全体を把握し、より良い音楽表現を目指して弾き語りができるようにすることを目標とする。 声楽・管弦専修：伴奏を通して音楽全体を把握し、曲にふさわしい音楽表現を目指して弾き語りができるようにすることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。						◎				◎					○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性						
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3				
23UMUP3238	楽 曲 研 究 A	3	楽譜から音楽を読みとる力、すなわち読譜力を高める。そして、音楽への理解力と構成力の感性を、創造的に深めていく。	小品の楽曲を分析し、独自の演奏解釈が可能となる。そのための音楽的基礎知識をマスターする。	◎	◎			○											
23UMUP3239	楽 曲 研 究 B	3	読譜力を高める。楽譜の流れから作曲家の心の中での楽想のふくらんでいく過程を読みとっていく。	授業内に取り上げた楽曲（特にソナタ形式）を十分に理解し、それ以外の楽曲に応用する分析力をつける。	◎	◎			○											
23UMUP3240	電 子 楽 器	3	卒業後、教員、音楽教室講師など音楽の職業について時に役立つ力を身につけ、クラシック以外の様々なジャンルの音楽についての知識も深め、あらゆるジャンルの曲にも取り組み、様々な対応力を身につける。	各自志向の曲が何曲か仕上がり、即興演奏の手法も身につけることを目標とする。					◎											○
23UMUP1241	音 楽 史 I	1	人類が音を取り扱う中で培ってきた音楽の歴史を古代から振り返り、ヨーロッパはバロック音楽まで、日本は中世までの音楽事象の変化を社会の流れと結びつける。	ヨーロッパを中心とする西洋と日本の音楽文化の違いを認識し、それぞれを対照しつつ、体系的な理解を得ることを目標とする。			◎		○											
23UMUP2242	音 楽 史 II	2	「音楽史Ⅰ」を受け、ヨーロッパはバロック音楽から古典派音楽へのダイナミックな転換から、日本は近世以降、それぞれ現代までの音楽の歴史を社会の流れと結びつける。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ヨーロッパを中心とする西洋と日本の音楽文化の違いを認識し、それぞれを対照しつつ、体系的な理解を得ることを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			◎		○											
23UMUP1243	合 唱 I	1	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を楽しむとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して表現を工夫しながら合わせて歌うこと。また、社会で協調できる能力の育成を目標にする。					◎	◎										
23UMUP2244	合 唱 II	2	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を楽しむとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して表現を工夫しながら合わせて歌うこと。また、社会で協調できる能力の育成を目標にする。					◎	◎										
23UMUP3245	合 唱 III	3	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を楽しむとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うことを通して社会で協調できる能力の育成を目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎	◎										
23UMUP1246	学 内 演 奏 I	1	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを旨とする。	演奏やレクチャーを受講し、客観的に音楽をとらえていくことを学ぶ。										◎						○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
23UMUP4259	声楽演奏研究Ⅲ B	4	アンサンブルの音楽的特色を学び、その学習を通じて、技術的な特色を学び、演奏できるレベルに仕上げる。	伴奏に対応でき、内容を伝えることができる歌唱。協調性と豊かな自己表現ができることを目標とする。				◎	○	○	○		○		○	
23UMUP3260	演技演習	3	様々な芸術分野が複雑にかつ有機的に関連するオペラを、音楽と演劇両面からの理解を深めるため、まず演じる基礎となる種々の演習を実践することを目的とする。	オペラの台本から読み取れる感情や背景等に関する知識の理解。共同作業によるコミュニケーション、チームワークやリーダーシップ、責任感。肉体を動かすことによる心身の解放。これらを総合的に活用し、自然な動きや自由な自分らしい発想による役作りができることを目標とする。				○	◎	○						
23UMUP4261	オペラ	4	一本のオペラを通して演奏し、演技も付けることにより、より確実な呼吸法と発声法と表現法を体験する。演じる楽しさと歓びを体験する。集団で創り上げる喜びと達成感を体験する。	オペラの演奏と演技をすることにより、客観的に自分自身を理解すること。クラス授業で沢山の同級生とひとつの作品を公演にもっていく過程において、相手を理解し、共同して作りあげる喜びを体験すること。				○	◎	○						
23UMUP4262	合唱指導法	4	多種多様な要求に応えることができる専門の知識と、柔軟で魅力的な指導力を身につけることを目的とする。	指導することで、多岐にわたる問題を解決する能力を養い、社会に出た際に柔軟に対応できる能力を養うことを目標にする。					◎			◎	◎		○	
23UMUP2263	協奏曲Ⅰ	2	ピアノとオーケストラの合奏形態の中で、管弦楽器の様々な音色や特性を念頭におき、ソリストとして音楽的で完成度の高い演奏とは何かを追求していく。	相互の楽器の特徴を發揮しながら調和するように作られた作品（ピアノという独奏楽器と管弦楽との合奏）に、どのように取り組み、表現するかを学ぶ。				◎	◎	○				○		
23UMUP3264	協奏曲Ⅱ	3	ピアノとオーケストラの合奏形態の中で、管弦楽器の様々な音色や特性を念頭におき、ソリストとして音楽的で完成度の高い演奏とは何かを追求していく。「協奏曲Ⅰ」よりもさらに内容の高いものが要求される。	「協奏曲Ⅰ」と同様、相互の楽器の特徴を發揮しながら調和するように作られた作品（ピアノという独奏楽器と管弦楽との合奏）に、どのように取り組み、表現するかを学ぶ。また「協奏曲Ⅰ」で習得した合奏方法を、さらに音楽的な演奏に高めるために学習し習得していく。				◎	◎	○				○		
23UMUP4265	伴奏法	4	音楽表現の中で、共演者と対等な関係にある伴奏の重要性を理解し、伴奏に求められている柔軟で確実なテクニックや多彩で豊かな音楽性について考察し、質の高い演奏技能を習得する。その上で、一人では完成できない曲をともに作り上げていく喜びを感じ、さらに多彩で深い表現を求めて自主的に探究していく力を養うことを目的とする。	共演者とともに音楽を表現することに喜びを感じるために、安定した信頼できるテクニックを習得すること。また、ともに音楽を作り上げていく共演者の息遣いを感じ、そのフレーズに相応しい表現のために柔軟な対応ができる力を養うことを目標とする。						◎		○		◎	○	
23UMUP4266	ピアノアンサンブル	4	ピアノという楽器に習熟し、パートナーとのふれあいを通じてアンサンブルとしての調和を学び、ともに生きた音楽を作りあげるよるこびを体得する。	できるだけ多くの楽曲に接し、前期・後期の最終授業では演奏ホールで仕上げの演奏を発表する。						◎		○		◎	○	
23UMUP4267	ピアノ指導法	4	教えることを通して、改めて自分のピアノ、音楽に向かう姿勢など見つめ直す機会とする。	演奏をクリティカルな聴き方をするだけでなく、その楽曲について作曲家の意図を考え、どうすればそれが聴き手に伝わる演奏となるのか、具体的に考える。生徒が楽曲について興味を持つようなレッスンについて考える。基礎的な読譜力を高める。					◎			◎	◎		○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																	
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																	
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性								
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3						
23UMUP3268	チェンバロ	3	チェンバロ奏法の習得とバロック時代の音楽習慣の理解を目指す。	バロックの作品を演奏するときに戸惑いがちな装飾法やアーティキュレーションといったバロック独特の演奏習慣を理解するために、チェンバロの奏法を学ぶ。 また、バロックから初期古典派時代に存在した独特な音楽的演奏習慣や演奏語法の知識を深めることにより、古典派さらにロマン派音楽への変遷を理解することを目指す。	◎		○															
23UMUP3269	重奏演習	3	ピアノを含む室内楽曲において、他楽器とのアンサンブルの楽しさや難しさを知り、合わせるテクニックを身につける。	他楽器との関係が対等であることを理解し、時に伴奏、時に主導権を握って音楽を進めていく双方の弾き分けを身につける。						◎		○						○	○			
23UMUP4270	合奏指導法	4	合唱、オーケストラ、吹奏楽など音楽家同士のコミュニケーションが必要とされる現場で、指導者としてどのようにアプローチしていくかを考察する。楽器、声楽の知識、また演奏技術や作品の熟知など様々な面の研究が必要とされる。また、合奏（音づくり）指導や練習方法などを学ぶ。	合奏指導法では、指導者の目線で音楽を捉えつつ、また相手に「どのように伝えるのか」をテーマに研究していく。								◎			◎	◎					○	
23UMUP1271	合奏 I	1	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	基本的な合奏の技術を身につける。									○	◎	○	○						
23UMUP2272	合奏 II	2	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	より高度なアンサンブル能力を身につける。									○	◎	○	○						
23UMUP3273	合奏 III	3	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	自分の声部だけでなく、音楽全体を把握できる能力を身につける。										○	◎	○	○					
23UMUP4274	合奏 IV	4	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	さらに高度なアンサンブル能力を身につける。また舞台マナー等にも気を配れるようにする。										○	◎	○	○					